

施策番号	2503		
施策名	都市活動を支える社会資本の維持管理		
概要	道路や橋りょうなど市民生活に不可欠な社会資本の維持管理について、日々の点検とともに、これまでの「壊れてから直す」対処療法的な維持管理から、「壊れる前に対策する」予防保全型の管理手法に移行し、計画的かつ効率的に推進する。		
担当局・部室	建設局・土木管理部	共管局・部室	
上位政策	25 道と緑		
施策に関する主な分野別計画等			

施策の評価

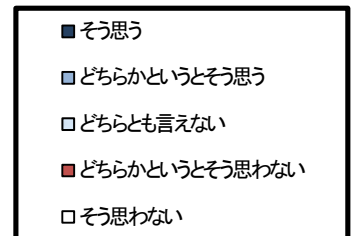
1 客観指標評価

指標名	23年度	24年度	25年度評価						
			前回値	最新値	目標値	達成度	評価	指標のウェイト	
1 生活道路における舗装アセットマネジメント導入率(%)	a	c	19	25	9.4ポイント増	63.8%	b	1.00	
2 幹線道路における舗装アセットマネジメント導入率(%)	e	a	78	78	2.8ポイント増	0.0%	e	1.00	
3 橋りょうにおけるアセットマネジメント導入率(%)	-	a	28.3	31.7	3.4ポイント増	100.0%	a	1.00	
4 -	-	-	-	-	-	-	-	-	
5 -	-	-	-	-	-	-	-	-	
6 -	-	-	-	-	-	-	-	-	
		c	a	客観指標総合評価				c	

2 市民生活実感評価

*この評価は、毎年5月頃に実施している京都市市民生活実感調査のアンケート結果を基にしています。

設問	25年度回答						有効回答者数	評価
	そう思う	どちらかと言うとそう思う	どちらとも言えない	どちらかと言うとそう思わない	そう思わない			
1 市内の道路や橋が、市民の財産として、よい状態で管理されている。	27	158	182	94	35	496	c	
	5.4%	31.9%	36.7%	19.0%	7.1%			
2 -							-	
3 -							-	
4 -							-	
5 -							-	
市民生活実感調査総合評価							c	



3 総合評価(客観指標総合評価+市民生活実感調査総合評価)

C	施策の目的がそれぞれ達成されている					24年度	B
	重み付け	<input checked="" type="checkbox"/> 客観指標	c	<input type="checkbox"/> 市民の実感	c		
(重み付けの理由) 道路・橋りょうの老朽化の程度や、補修の状況などは市民に成果が実感されにくいいため、客観指標評価を重視する。						23年度	C
(原因分析) ・客観指標1について、点検調査は進んだが、目標には届かず、b評価となった。 ・客観指標2について、緊急輸送路や交通量が多い幹線道路の再点検を優先的に行ったため、交通量の少ない箇所には着手できず、e評価となった。 ・客観指標3について、「いのちを守る橋りょう健全化プログラム」に基づき、23年度から取組を実施した。計画どおりに進捗しており、a評価となった。							

今後の方向性の検討

<この施策を構成する事務事業>

	事業名	事業費の状況(千円)		25年度事務事業評価結果 における目標達成度評価	担当局
		24年度 決算額	25年度 予算額		
1	橋りょうの耐震補強と老朽化修繕	875,542	1,578,185	—	建設局
2	原谷地区整備	16,890	52,050	—	建設局
3	道路改良	94,835	114,184	—	建設局
4	被災者就労支援事業(道路パトロール)	3,488	—	—	建設局
5	都心部における道路管理に関する調査	—	19,006	—	建設局
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					

*予算額には人件費及び施設管理に係る経費を含みます。

<今後の方向性>

- ・今後も、道路の舗装アセットマネジメントや橋りょうのアセットマネジメントを積極的に取り入れ、予防保全型の維持管理を行うことにより、計画的・効率的な社会資本整備の維持管理に努める。
- ・道路の舗装アセットマネジメントについては、平成25年度以降、未点検箇所にも着手し、目標達成に向け取組を進めていく。
- ・橋りょうのアセットマネジメントについては、平成23年度に策定した「いのちを守る 橋りょう健全化プログラム」に基づき、引き続き、取組を推進する。
- ・また、関係機関と連携しながら、通学路を含む生活道路の安全確保に向けた取組を進めていく。

施策名	2503	都市活動を支える社会資本の維持管理
-----	------	-------------------

指標名	生活道路における舗装アセットマネジメント導入率(%)
-----	----------------------------

担当課	調整管理課	連絡先	222-3568
-----	-------	-----	----------

1 指標の説明
 施設の中長期的な劣化予測を行うとともに、予算の制約のもとでいつどのような対策を、どこで行うのが最適であるか体系的に意思決定する手法を、生活道路舗装に導入した率

2 指標の意味 生活道路の計画的かつ効果的な維持管理を行う取組状況を示す指標	3 算出方法・出典等 算出方法：点検済延長÷点検対象延長 出典：事業担当課調べ
--	--

4 数値

	前回数値	最新数値	推移	目標値		
	23年度	24年度		数値	根拠	達成度
数値	19	25	6ポイント増	9.4ポイント増	中長期目標までの残年数内に目標を達成するために当該年度に達成すべき数値	63.8%

	全国順位	中長期目標			備考
		数値	目標年次	達成度	
数値		100	32年度	25.0%	完全導入を目指す。

5 評価基準 単年度の目標値に対する達成度が a：80%以上 b：60%以上～80%未満 c：40%以上～60%未満 d：20%以上～40%未満 e：20%未満	6 基準説明 目標年次までに完全実施するために必要な進捗割合(%)を単年度目標とし、財政状況の寄与度が比較的高いことから、80%以上をaとし、以下20%刻みで基準を設定した。	7 評価結果
		23 24 25 a c b

指標名	幹線道路における舗装アセットマネジメント導入率(%)
-----	----------------------------

担当課	調整管理課	連絡先	222-3568
-----	-------	-----	----------

1 指標の説明
 施設の中長期的な劣化予測を行うとともに、予算の制約のもとでいつどのような対策を、どこで行うのが最適であるか体系的に意思決定する手法を、幹線道路舗装に導入した率

2 指標の意味 幹線道路の計画的かつ効果的な維持管理を行う取組状況を示す指標	3 算出方法・出典等 算出方法：点検済延長÷点検対象延長 出典：事業担当課調べ
--	--

4 数値

	前回数値	最新数値	推移	目標値		
	23年度	24年度		数値	根拠	達成度
数値	78	78	増減なし	2.8ポイント増	中長期目標までの残年数内に目標を達成するために当該年度に達成すべき数値	0.0%

	全国順位	中長期目標			備考
		数値	目標年次	達成度	
数値		100	32年度	78.0%	完全導入を目指す。

5 評価基準 単年度の目標値に対する達成度が a：80%以上 b：60%以上～80%未満 c：40%以上～60%未満 d：20%以上～40%未満 e：20%未満	6 基準説明 目標年次までに完全実施するために必要な進捗割合(%)を単年度目標とし、財政状況の寄与度が比較的高いことから、80%以上をaとし、以下20%刻みで基準を設定した。	7 評価結果
		23 24 25 e a e

施策名	2503	都市活動を支える社会資本の維持管理
-----	------	-------------------

指標名	橋りょうにおけるアセットマネジメント導入率 (%)
-----	---------------------------

担当課	調整管理課	連絡先	2 2 2 - 3 5 6 8
-----	-------	-----	-----------------

1 指標の説明

施設の中長期的な劣化予測を行うとともに、予算の制約のもとでいつどのような対策を、どこで行うのが最適であるか体系的に意思決定する手法を、橋りょうに導入した率

2 指標の意味

市民生活に不可欠な社会資本である橋りょうの計画的・効果的な保全状況を示す指標

3 算出方法・出典等

算出方法：点検済橋りょう数÷管理橋りょう数
出典：事業担当課調べ

4 数値

	前回数値	最新数値	推移	目標値		
	23年度	24年度		数値	根拠	達成度
数値	28.3	31.7	3.4ポイント増	3.4ポイント増	中長期目標までの残年数内に目標を達成するために当該年度に達成すべき数値	100.0%

	全国順位	中長期目標			根拠
		数値	目標年次	達成度	
数値		100	28年度	31.7%	「いのちを守る橋りょう健全化プログラム」第1期プログラム（H24～H28）に基づき、本市の管理橋りょう数のうち、耐震補強老朽化修繕の完了した橋りょう全て（約2千橋）に導入

備考	
----	--

5 評価基準

単年度の目標値に対する達成度が
a：80%以上
b：60%以上～80%未満
c：40%以上～60%未満
d：20%以上～40%未満
e：20%未満

6 基準説明

目標年次までに完全実施するために必要な進捗割合（%）を単年度目標とし、財政状況の寄与度が比較的高いことから、80%以上をaとし、以下20%刻みで基準を設定した。

7 評価結果

23	24	25
-	a	a